

『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業」授業研究会レポート No.6

高知市立潮江東小学校 授業研究会

平成30年6月29日（金）

国語科 第5学年「立場を決めて討論をしよう」上平田 和代 教諭



授業改善を確かな形にするために、新たな学び場がスタートしました。本授業研究会は、これからの「高知の授業づくり改革」に向けて、こういった視点が大切なのかを参加者と共有し、明日からの授業づくりの方向性を確認するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業の質を高めることを目的としています。

本時の目標

討論モデル動画と原稿文から答え方のポイントを使って、質問に対する答えを書いたり話したりできる。

授業の視点

「答え方」のポイントを生かしながら、質問に対する答えを表現しているかどうか。



最終板書



ここがポイント！

六月二十九日

討論での答え方のポイントを見つけよう

三つ目の理由に対しての質問です。給食はメニューが豊富といいましたが、お弁当でも色々自分の好きなおかずを入れてもらえるのでよいと思いますが、どうですか。

目線 強調 伝わりやすい

ポイントを生かして質問に答えてみよう

このことから

体験

対比

最後の自分の意見はしっかり伝える

具体的・分かりやすい

納得・分かりやすい

アンケート引用

(事実)

去年の給食委員会のアンケートによると、給食のおかわりを楽しみにしている人が全校で50%以上もいたそうです。おかわりして食べたいだけ食べられる給食の方がいいと思います。

ただし、できてはなくてもおいしいものはあります。しかし、寒い冬、給食で温かいスープを飲んだときは体がほかほかしてきました。できたてが食べられる給食の方がいいと思います。

本単元で付けたい力は、立場を決めて説得力ある主張をしたり相手の主張と理由について自分の考えと比べながら聞いたりする力です。しかしながら、「話すこと・聞くこと」の教科書教材は紙面という性質上、文字に落とされています。したがって、教科書教材の「話すこと・聞くこと」も読み物教材のような展開になってしまう恐れがあります。

そこで、「話すこと・聞くこと」領域で能力ベースの授業をするためには、話しながら・聞きながら表現の質を高めていく単元構成を工夫する必要があります。

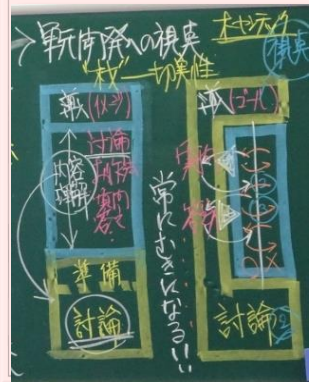
協議の視点

- * 討論モデル動画の「答え方」のポイントを生かしながら質問に対する答えを表現することができていたか。
- * 「話すこと」への学びを深めるために有効な手立てをうてていたか。

授業リフレクション

“型”から、一歩抜き出す

授業リフレクションでは、「対話の場面で、『それだったら納得する』『納得、納得』と自分事に落として友達の意見を聞くことができていた」「振り返りで、今、自分たちはこういうことができるようになったから、討論でこういう意見が言えると見通しをもてていた」「押さえたいポイントである『しかし』『たしかに』を子供はよく使っていたが、話の型を覚えることに終始していたのではないか。実際に討論するとき、今日の学習が果たして有効に生きるのだろうか」などの意見が出されました。



従来の内容ベースの単元構成では、「導入で討論のイメージを持つ」⇒「討論までに討論の仕方を学ぶ（内容理解を図る）」⇒「準備をした後、討論を行う」という流れだった。この“型”から、一歩抜き出すことが必要です。

今、求められている能力ベースの単元構成は、「導入でゴールの確認とともに、討論の視点について学ぶ」⇒「最終討論に向けて、「質問について学ぶ」「答



え方について学ぶ」などを繰り返しながら学ぶ（ミニ討論を重ねていく）⇒「最終討論」というように、「話しながら」「聞きながら」を行き来しながら表現の質を高める活動にしていくということです。つまり、単元構成そのものの作り方を能力ベースに作り直すことが大切です。

経験群の“質”を一段高いステージへ

学びのデザインを「形成」「整理」「再構築」の3つで整理して考えると次のように考えることができます。

まず、言葉や対象、使い方、意味に着目し、質問に対する的確な表現方法を選び、自分の表現方法を「形成」します。次に、他者との交流の中で、自分が最初に表現したものをもう一度見直し、他者の知見を生かします。「…そうか。そういう言い方もあるのか。」と、少し自分の表現方法が不十分であったところを「整理」して、いいものにしていきます。最後に、交流の中で得た知見を「再構築」します。自らの表現をリメイクし、現段階での自分の納得する表現方法を得ます。

このように“見方・考え方”で学びをデザインすることで、子供の経験群の質を、一段高いステージへ引き上げることができます。



提案授業から見えてきたこと

子供たちは単元を終え、学んだことが生かされた満足感とその場で考えて話す力が伸びた実感を味わえたように感じました。

本時では課題も多く、習得⇒活用型パターンから脱却する必要があることを強く意識できた一方、それにより安心して学べている児童をどう導いていくか、研究していかなければならないと痛感しました。

上平田 和代 教諭

参加者の声

- 模擬授業の研修の時より、子供の思考の流れや学びがより明確になり、とても分かりやすくよい授業でした。これまで培ってこられた子供たちの力が今日の1単位時間につながっていると思いました。「型」からの脱却を実践していくハードルは、とても高く感じますが、付ける力を「ひがっ子」のように付け、子供の力を信じて学ぼうとする意欲に託すことができればと思いました。
- 進んで授業に参加する子供の姿に圧倒されました。
- 今日の事後研をとおして、子供たちの深い学びにつながるカリキュラム開発に、単元を決めてチャレンジしていきたいと思いました。
- 子供たちが自分事となる単元のゴールや授業構成について、自分の授業づくりに生かしていきたいと思いました。

check!

子供の期待に応える学びをともにつくりませんか

次回 平成30年8月1日(水) 教材研究会 15:00から 1年 国語科「サラダげんき」